

平成 22 年度全国学力・学習状況調査 結果の概要

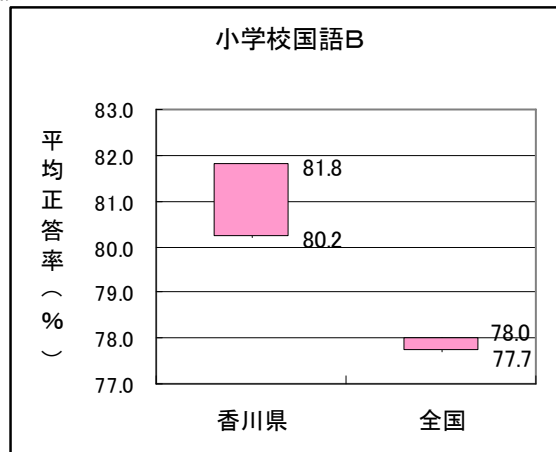
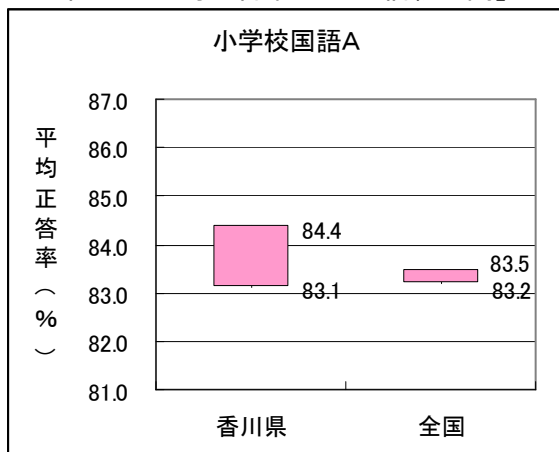
(1) 調査区別結果

- 本県は、全ての調査区分で、「平均正答率の 95%信頼区間」が、全国(公立)より上位の傾向にある。
- 県と全国の「平均正答率の 95%信頼区間」の比較から、小学校国語 B、中学校数学 A、B が全国(公立)より良い結果であることが窺える。
- 県と全国の「平均正答率の 95%信頼区間」の比較から、小学校国語 A、中学校国語 B では、全国(公立)との差があまりないことが窺える。
- 中学校国語 A、中学校国語 B、中学校数学 A では、正答数が低い生徒の割合が全国を上回る傾向にある。

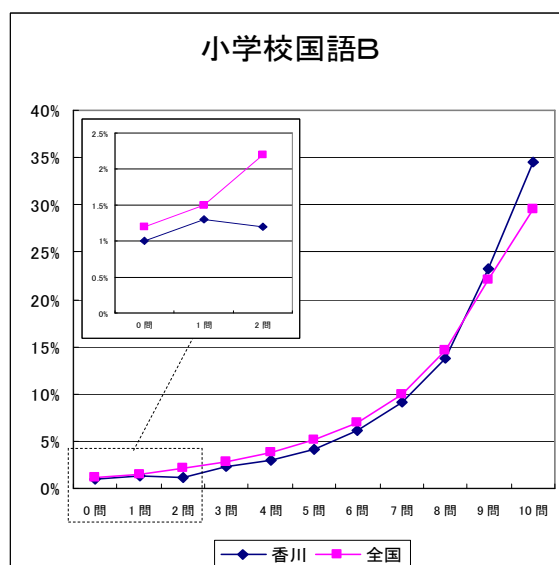
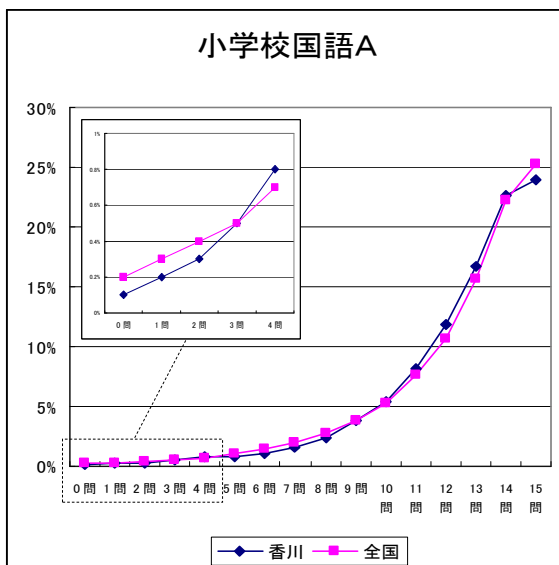
■小学校調査の結果

学校種		小学校調査			
調査区分		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
抽出対象	県(公立)「平均正答率の 95%信頼区間」(%)	83.1~84.4	80.2~81.8	74.4~76.1	49.5~51.4
	(「平均正答率の推計値」)	(83.8)	(81.0)	(75.2)	(50.5)
	全国(公立)「平均正答率の 95%信頼区間」(%)	83.2~83.5	77.7~78.0	74.0~74.4	49.1~49.5
	(「平均正答率の推計値」)	(83.3)	(77.8)	(74.2)	(49.3)
希望利用県平均(%)		83.7	75.7	75.2	56.3

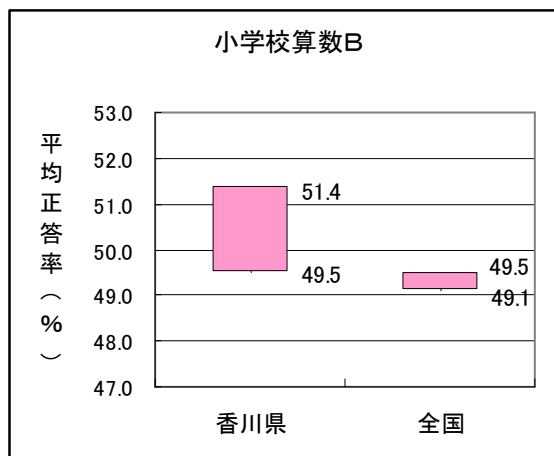
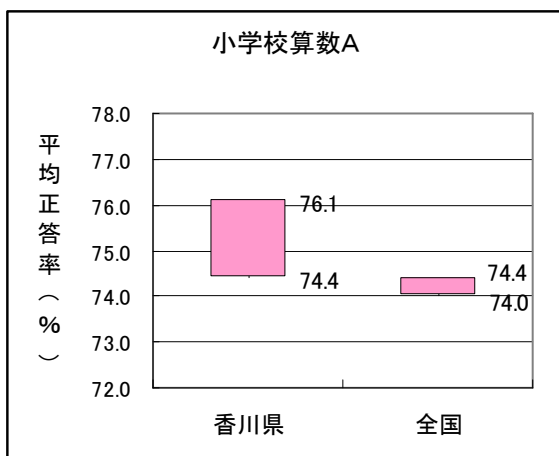
県と全国の「平均正答率の 95%信頼区間」の比較



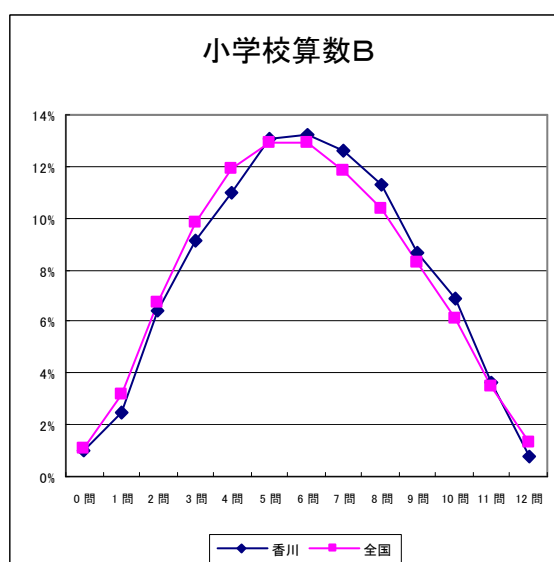
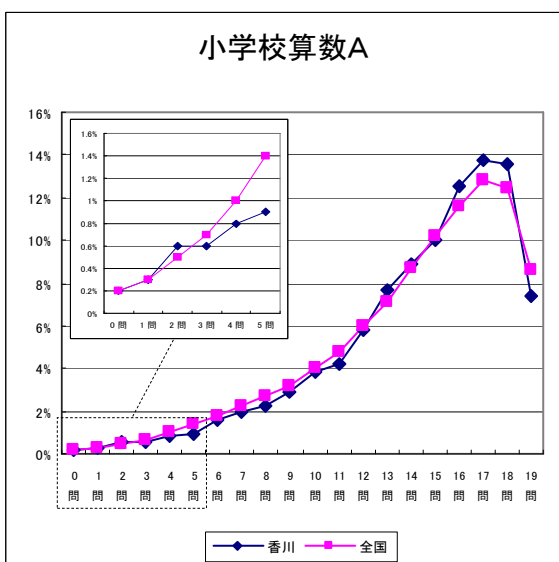
正答数分布グラフ



県と全国の「平均正答率の95%信頼区間」の比較



正答数分布グラフ



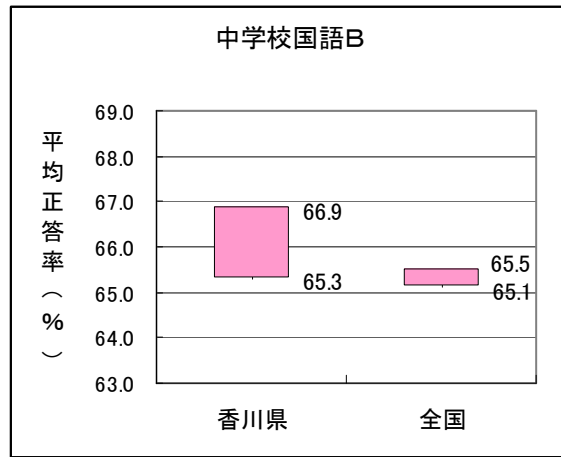
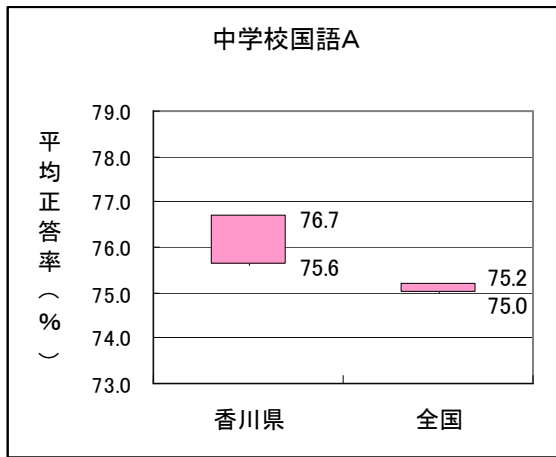
◆（参考）平成19年度～21年度全国学力・学習状況調査平均正答率【小学校調査】

調査区分	国語A			国語B			算数A			算数B		
	H19	H20	H21	H19	H20	H21	H19	H20	H21	H19	H20	H21
調査年度	H19	H20	H21	H19	H20	H21	H19	H20	H21	H19	H20	H21
県平均正答率 (%)	83.9	67.2	71.2	68.0	53.8	54.5	85.3	74.1	80.5	67.1	54.3	55.9
全国(公立)平均正答率 (%)	81.7	65.4	69.9	62.0	50.5	50.5	82.1	72.2	78.7	63.6	51.6	54.8
県と全国との差	+2.2	+1.8	+1.3	+6.0	+3.3	+4.0	+3.2	+1.9	+1.8	+3.5	+2.7	+1.1

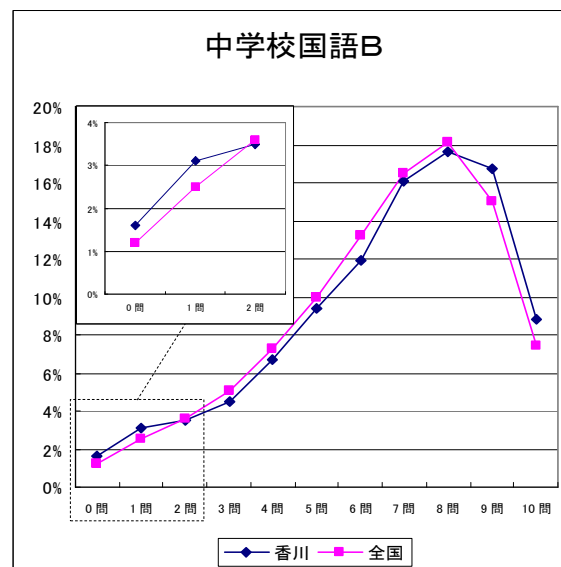
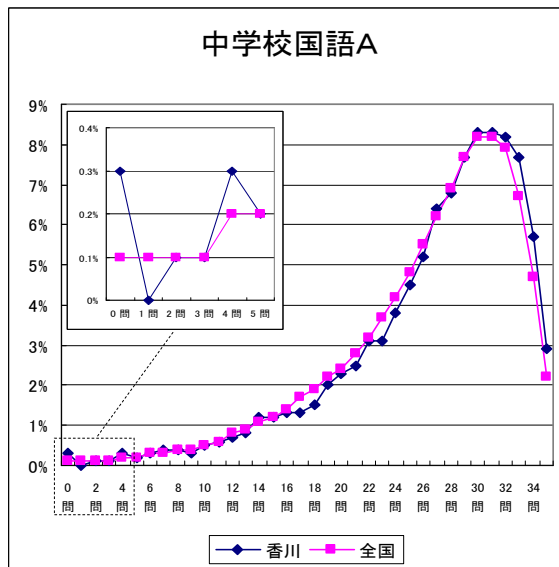
■中学校調査の結果

学校種		中学校調査			
調査区分		国語A	国語B	数学A	数学B
抽出対象	県(公立)「平均正答率の95%信頼区間」(%)	75.6~76.7	65.3~66.9	67.2~69.1	45.3~47.5
	(「平均正答率の推計値」)	(76.2)	(66.1)	(68.1)	(46.4)
	全国(公立)「平均正答率の95%信頼区間」(%)	75.0~75.2	65.1~65.5	64.4~64.8	43.1~43.5
	(「平均正答率の推計値」)	(75.1)	(65.3)	(64.6)	(43.3)
希望利用県平均(%)		76.9	57.9	68.3	52.0

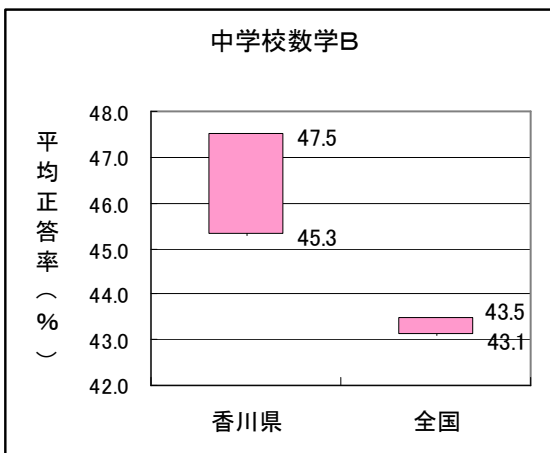
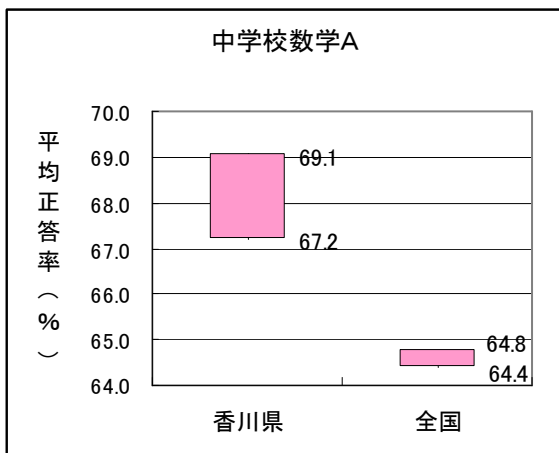
県と全国の「平均正答率の95%信頼区間」の比較



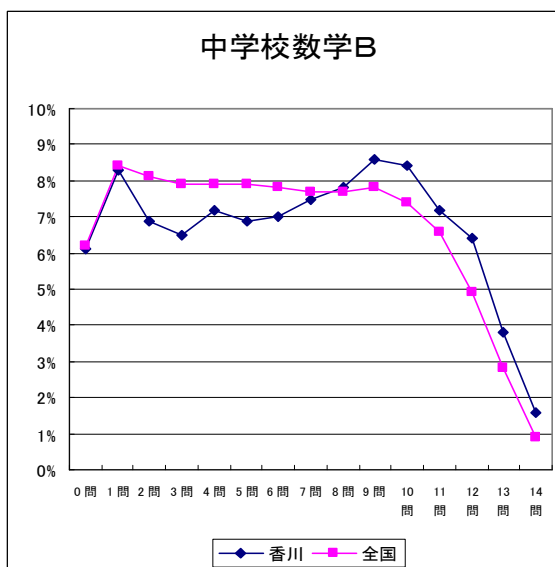
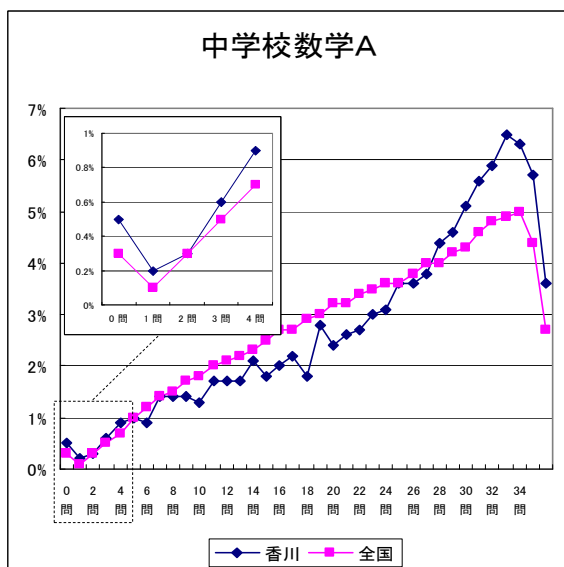
正答数分布グラフ



県と全国の「平均正答率の95%信頼区間」の比較



正答数分布グラフ



◆ (参考) 平成19年度～21年度全国学力・学習状況調査平均正答率【中学校調査】

調査区分	国語A			国語B			数学A			数学B			
	調査年度	H19	H20	H21	H19	H20	H21	H19	H20	H21	H19	H20	H21
県平均正答率 (%)		82.7	75.7	79.1	74.0	62.7	75.9	76.1	68.0	66.5	62.9	52.6	59.6
全国(公立)平均正答率 (%)		81.6	73.6	77.0	72.0	60.8	74.5	71.9	63.1	62.7	60.6	49.2	56.9
県と全国との差		+1.1	+2.1	+2.1	+2.0	+1.9	+1.4	+4.2	+4.9	+3.8	+2.3	+3.4	+2.7

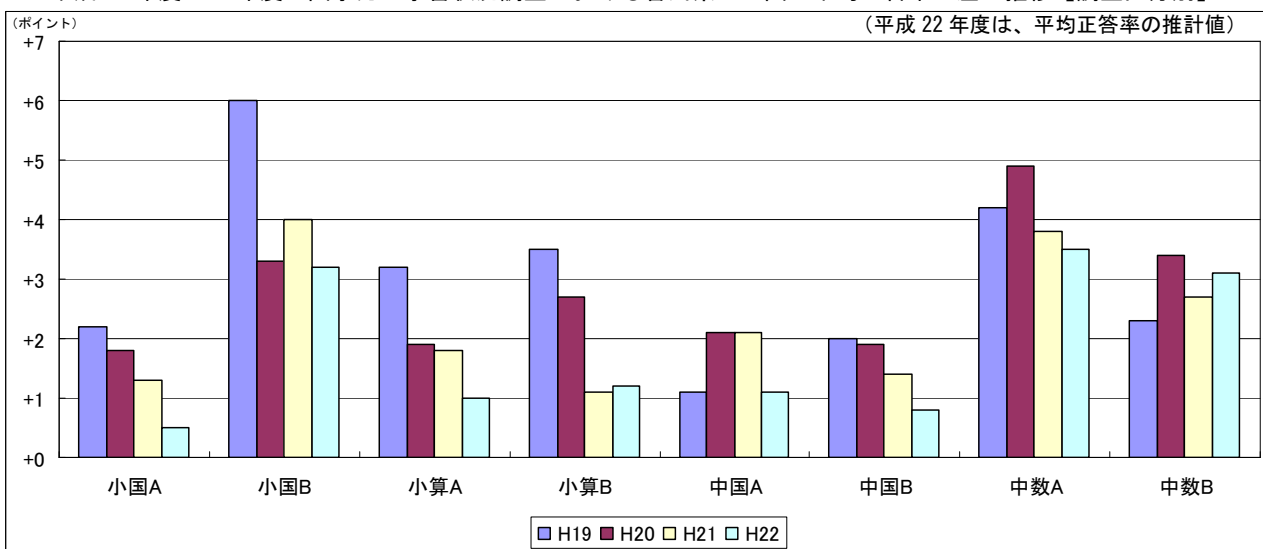
(2) 調査結果から明らかになった課題

- 主として「知識」に関する問題（A問題）では、平均正答率から見ると、基礎的・基本的な内容の定着が窺えるが、各設問を個別に見ると、継続的な課題が見られるものがある。
例えば、国語では、文の構成を理解し、伝えたい内容を適切に書いたり、推敲したりすること、数学では、割合や比例など、2つの数量の関係を理解することに課題が見られる。
- 主として「活用」に関する問題（B問題）では、記述式を中心に正答率の低い問題がある。
例えば、国語では、資料や情報に基づいて自分の考えや感想を明確に記述すること、算数では、日常的な事象について、筋道を立てて考え、数学的に表現することに課題が見られる。

(3) 平成19年度～22年度における県と全国の平均正答率の差の推移

- 本県は、平成19年度から平成22年度まで、全ての調査区分で、平均正答率が、全国(公立)より上位の傾向にある。
- 小学校国語B、中学校数学Aでは、4年間すべてにおいて、平均正答率が、全国(公立)を3ポイント以上上回っている。
- 4年間の推移を見ると、全国との差は小さくなっている傾向が見られる。

平成19年度～22年度全国学力・学習状況調査における香川県と全国の平均正答率の差の推移【調査区分別】



平成19年度～22年度全国学力・学習状況調査における香川県と全国の平均正答率の差の推移【年度別】

